

子連れ可能なワーキングスペースに関する研究
～働く親と子ども達の新しい場所として～

鈴木ゼミ 14-1-191-0802 EDWIN SANTOSO

1. 研究背景・内容

ワーキング (Co-working) とは、スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行うワークスタイルを指し、1999年にベルナルデコーヴェンという米国の理論家により定義された。

公式のワーキングスペースは2005年に誕生してから、短期間に渡って様々な文化や社会と触れ合うことにより、形態自体が変化した。その変化の一つとして、2008年にアメリカのシリコンバレーにおいて世界初の保育サービス付きワーキングスペースが生まれ、日本では2012年に登場した。本研究では様々な保育サービス付きワーキングスペースの代表例を分析して比較し、進行の研究を目的とする。

2. 研究対象と調査方法

研究対象は検索し得た国内の20ヶ所の子連れ可能なワーキングスペースとした(表2)。それらに対し、文献調査やSNSでのインタビュー、施設訪問によるインタビューを通じて調査を行った。

・施設の事業状況調査

空間共有型オフィスに関連した論文や書籍調査を行った後、子連れ可能な施設への調査を通じてスペース

表1 地域別ワーキングスペース件数

施設数			
東京	9	長野	1
埼玉	3	大阪	2
千葉	1	奈良	1
静岡	1	熊本	1
群馬	1		
合計			20

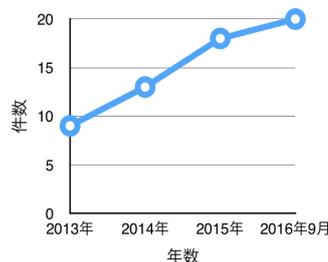


図1 コワーキングスペース件数の推移

の利用の仕方、組織体制、利用者のデータを収集した。

・施設運営者とのインタビューや現場調査

2016年の10月に関東の3つの施設の現場調査を行い、運営者とのインタビューも行った。個人運営の施設(BC)と民間会社運営の(HC)と(MB)を訪問した。2016年11月に 関西の(JC)と(WF)に現場調査をし、運営者とのインタビューをし、開催イベントに参加した。さらに、2016年12月に(OU)に追加調査をした。この6つ以外のワーキングスペースはメールや電話を通じての質問時間を設けた。

表2 調査対象施設の概要

名称	所在地	開設年月		所属建物					施設スペース			設置経緯	託児サービス	子供空間	運営組織型	
		ワーキング	保育サービス	種類	高さ種類	建築面積(m ²)	施設面積(m ²)	構造	所用階数	建物使用	デスク数				民間	個人
CS	熊本	2012	2015	民間ビル	低層	58	59	W造	2内1	共用	11	既築	○	○	民間	個人
WF	奈良	2014	同年	民間ビル	中層	90	90	S造	3内1	共用	22		○	○	民間	会社
LC	東京	2013	なし	民間ビル	高層	842	53	RC造	8内1	共用	10		×	○	NPC	会社
MH	東京	2014	同年	民間ビル	中層	443	44	RC造	5内1	共用	12		○	○	民間	会社
ML	千葉	2016	同年	商業施設	高層	1582	105	RC造	15内1	共用	-		○	○	民間	会社
BC	東京	2013	同年	事務ビル	中層	232	59	RC造	3内1	共用	6		○	○	民間	個人
MB	東京	2014	同年	民間ビル	中層	120	120	RC造	3内2	共用	20		○	○	民間	会社
HC	東京	2012	2015	事務ビル	高層	265	265	RC造	9内1	共用	12		○	○	民間	会社
RP	東京	2015	同年	事務ビル	高層	176	176	RC造	7内3	共用	92		○	○	民間	会社
ON	埼玉	2012	2013	事務ビル	高層	55	55	S造	10内7	共用	53		○	×	民間	会社
NB	東京	2014	なし	事務ビル	中層	270	54	S造	4内1	共用	14		×	○	民間	会社
MA	埼玉	2015	-	事務ビル	高層	325	325	RC造	7内1	共用	-		○	○	民間	会社
CC	東京	2011	なし	民間ビル	中層	49	49	S造	3内1	共用	16		×	×	NPC	会社
CG	東京	2015	なし	民間ビル	中層	239	239	-	4内1	共用	30		×	○	NPC	会社
CT	群馬	2015	なし	民間ビル	中層	298	298	RC造	4内1	共用	26		×	○	NPO	団体
JC	大阪	2010	2012	事務ビル	中層	24	233	RC造	4内2	共用	58		○	×	民間	会社
KL	静岡	2014	なし	民間ビル	中層	297	50	RC造	4内1	共用	10		×	○	民間	会社
HU	長野	2015	同年	事務ビル	中層	740	740	S造	4内2	共用	162		○	○	民間	会社
HH	埼玉	2015	なし	一軒家	低層	41	41	W造	2内2	専用	8		×	×	民間	個人
OU	大阪	2012	なし	商業建物	低層	45	19	W造	3内1	共用	8		×	×	民間	会社

3. 調査結果

・子連れ可能なコワーキングスペースの伸び率

調査対象の20施設の内18ヶ所は2012年から2016年の間に開設された。年ごとに違いはあるものの、毎年平均的な増加量は約3.6ヶ所である。その一方、毎年平均的な減少量は0.8ヶ所である。

・コワーキングスペース全体の比較

現在、日本にあるコワーキングスペースの数は約544ヶ所ある(2016年9月時点)。子連れ可能なタイプとコワーキングスペース全体を比較すると、平均面積では子連れ可能なタイプは全体の平均より約1.25倍広い。(子連れ可能なタイプの平均面積は153.7m²、全体の平均面積は119.9m²)。また平均デスク数は、子連れ可能なタイプは全体の平均の84%のデスク数であった。(子連れ可能なタイプの平均デスク数は28.5個、全体の平均デスク数は33.9個)

・託児サービスの提供

20ヶ所のうち11ヶ所の施設では託児サービスを提供している。11ヶ所のうち6ヶ所は開設から託児サービスを提供し、残りの5ヶ所は開設後に託児サービスを追加した。託児サービスを提供する11ヶ所は全施設に保育専用スタッフがおり、託児サービスを提供していない9ヶ所のうち数カ所では、保育士ではないものの見守りスタッフとしてのボランティアスタッフがいる。

・提供サービスと来客性別の割合

こども向けサービスの提供レベルが高ければ高いほど女性の客の割合が増える。(表2、表4)

・空間のゾーニング

20施設のうち16ヶ所では子供専用スペースが設置され、それ以外ではワークスペースに条件付きで子供連れが可能となっている。16ヶ所の施設は子供エリアと大人エリアを分離して提供しており、それらは1ヶ所を除き、大人エリアから子供エリアを見守ることができる。

表3 訪問した施設利用シーン

シーン1	会員と運営者のコミュニケーション場所に
例	会員は自分のビジネスについて、運営者に話し、マッチング出来そうなビジネスパートナーを探していた。(WF)
シーン2	会員同士のコミュニケーション場所に
例	仕事やパソコンについてわからないことがあり、パソコンが詳しくそうな会員のデスクに行き、相談した。(HC)
シーン3	子供同士の遊び場所に
例	子供が学校帰りに友達を連れてコワーキングスペースのキッズスペースに入り、ホワイトボードを使い遊んでいた。(JC)
シーン4	友人との待ち合わせ場所に
例	友人が来るのを待ち、来た時に休憩所に食事をしてから、グループ作業をした。(JC)
シーン5	シッターに子供を見てもらう場所に
例	急に仕事が入り、短時間で終わらさず必要があるのだが、家になかなかシッターを雇えない場合。(BC)

表4 訪問した施設の来客データまとめ

	BC	MB	HC	JC	WF
子連れ利用	80%	80%	70%	10%	60%
利用人数/日	2人	13人	8人	13人	18人
来客住所範囲	市内	県内	県外	県外	県内
来客の男女割合(男:女)	1:9	0:10	4:6	5:5	1:9

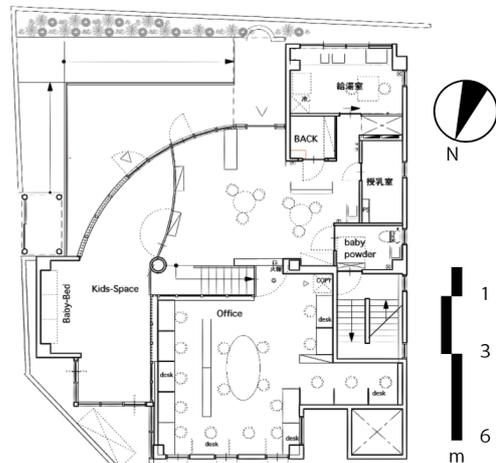


図2 MBの空間配置図



図3 1階 キッズスペース



図4 2階 ワークスペース

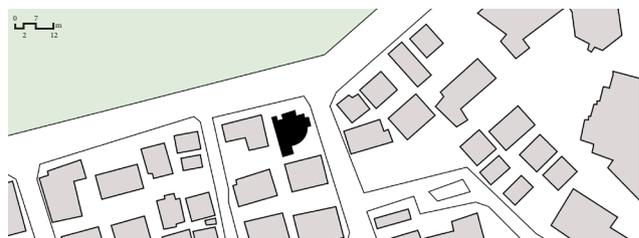


図5 周辺環境図

4. まとめ

子連れ可能なコワーキングスペースは1) 半数以上は託児サービス付きで、保育専用スタッフがいます。2) 多くは子供のための専用スペースがある。(残りはこどもも利用可能だがこどもに対しての特別な設備はない) 3) 8割の施設は子供エリアと大人エリアを分離して提供しており、それらは大人エリアからこどもエリアを見守ることができる施設がほとんどである。4) こども向けサービスの提供レベルによって利用者性別の割合に変動があることがわかった。

参考文献

- 花田愛、森田舞(2015)『オフィスはもっと楽しくなる: はたらく方と空間の多様性』President Inc., 223pp.
- T.Sundsted, D.Jones, T.Bacigalupo (2009) 『I'm Outta Here: How Co-Working Is Making the Office Obsolete』Lulu.com, 134 pages
- Architectural Institute of Japan (2015). Summarise of technical papers of annual meeting